

春の遠足は4月24日に決定

毎年春、秋に行っている遠足も、13回目を迎えます。今回は、4月24日(日)に行くことに決まりました。遺族会が4月10日ですので、その翌々週になります。行先はまだ決まっていないので、ご希望などありましたら、お知らせください。

※行先など詳細は、ホームページ、新聞などで、今後発表していきます。日程が変更になる場合もあります。近くなりましたら必ずご確認ください。

祈りの集い-自死者供養の会-

2011年3月6日(日)、東京都港区「東京グランドホテル」において、曹洞宗総合研究センター主催による「自死者供養の会」が行われますので、ご案内させていただきます。

※リメンバー名古屋は、特定の宗教、宗派とのみ強い関わりを持ったり、お勧めしたりすることはありません。幅広くさまざまな宗教、宗派の行事などをご紹介しますので、お気持ちに沿うものがあればご参加ください。

内容は下記のようになります。詳しくはホームページ(<http://www.sotozen-net.or.jp/>)をご覧ください。

内容:
○「端坐」～心を落ち着ける作法～
14:10～14:30
身を調(ととの)え、息を調えることで、心も調います。法要に際して、姿勢を正し、静かに呼吸するひとときを過ごします。

○「法要」～供養と祈り～
14:30～15:00
亡き人へのご供養を行い、安らぎを祈る場です。法要の際には、希望によりご戒名やお名前をお読みします。亡き人へのメッセージを持参された方には、ご焼香の時に直接祭壇にお供えいただけます。また、位牌や遺影、思い出の品などをお持ちいただいても結構です。

○「茶話会」～語らいのひととき～
15:00～15:30
別室に、お茶とお菓子をご用意いた

します。私たち僧侶とお茶をいただきながら、ひとときをすごしましょう。(参加は自由です)

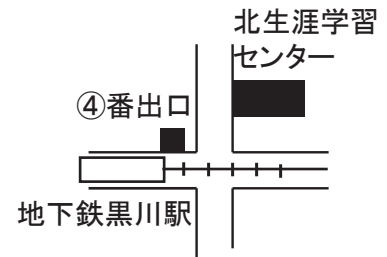
日時: 平成23年3月6日(日)
午後2時～3時30分
会場: 東京都港区芝 2-5-2
東京グランドホテル 5階
交通: 都営三田線 芝公園駅
A1出口 徒歩2分
JR浜松町駅
金杉橋口 徒歩8分
都営浅草線 大門駅
A3出口 徒歩7分
主催: 曹洞宗総合研究センター
「祈りの集い」実行委員会
会費: 無料
定員: 50名
(3月1日までに申し込みください)
対象: 自死者遺族、または知人を
自死で亡くした方。
宗教宗派は不問ですが、供養は曹洞宗の方法で行います。

申込先: 〒105-8544
東京都港区芝 2-5-2
曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター
「祈りの集い」事務局

次回の遺族会

第44回

2月27日(日) 13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費: 500円



その次は・・・

第45回

4月10日(日) 北生涯学習センター

- TEL 03-3454-6843
- FAX 03-3454-7180
- E-mail kyoken@sotozen.jp

※当日参加できない方へ
遠方であったり、都合がつかないなど、さまざまな理由で参加できない方も、お名前や戒名をお知らせいただければご供養致します。亡き人へのお手紙やご供養のためになさった写経などもお送りいただければ、当日祭壇にお供えしてご供養致します。お気軽にご連絡ください。
※参加を希望される方は、電話・郵送・FAX・メールにて住所・氏名・電話番号をお知らせください。後日詳細をお送りいたします。
※参加者のプライバシーに配慮するため、当日の取材はお断りしております。
※ここで知り得た個人情報ならびにお話の内容等、秘密を守ります。

以上、「祈りの集い」ホームページ・チラシからの引用です。

冊子「自死遺族の手紙」へ寄稿された方へ

ご寄稿いただきありがとうございます。2011年4月発行予定で、現在編集作業を進めています。

以下の方の文章をお預かりしておりますが、もし送っているが名前がないなどありましたら、ご連絡をいただけますでしょうか。また、「ちい」さん、お伝えしたいことがありますので、ご連絡をお願いいたします。

- ・hahaさん「あなたへ・・・」
- ・あきこさん「大好きな・・・」
- ・おねえさん「妹へ・・・」(2作)
- ・おとうさん「Sへの・・・」
- ・短歌「さにわべの・・・」
- ・娘へ「あなたは今・・・」
- ・ちいさん「今日は誕生日・・・」

リメンバー文庫



リメンバー文庫では、遺族の方向けの書籍を集め、遺族会の時などに貸し出しを行っています。今回は、文庫の中から「死別の悲しみを超えて」(若林一美・著)を紹介させていただきます。

今回リメンバー文庫の紹介で取り上げる本は、先のリメンバー in岡崎で行われた講演会の講師をされた、若林一美先生の著書『死別の悲しみを超えて』です。

この本にはたくさんの遺族の方の証言、体験が書かれてあります。自死の喪失体験は含まれていませんが、涙なしには読めませんでした。若林先生ご自身は遺族ではありませんが、実際に「ちいさな風の会」という子どもを亡くした親の自助グループの立ち上げから世話人として携わっていらっしやっただけで、その文章はやさしさにあふれています。

現代社会のあり様から、遺族の生きにくさを述べられている若林先生。はからずも遺族となり、現代社会のなかに取り残され、生きることがおぼつかなく、居場所を捜し求めている遺族の人々。しかし、その遺族からやさしさを感じられるのはなぜか—「自分の心のなかにある憎しみ、嫉妬、怒りといった感情をも認める強さを持っているからではないかと思う」とおっしゃられています。私自身、まだそのような強さを持っているとは言えません。しかし、この本に書かれていることが自分の身となり力となれば、本当の意味で「生きる」ことが出来るのではないかと思います。

この本は医学的あるいは心理学的な考察・分析をしている本ではありません。

ありのままの遺族の姿を書いているのです。若林先生が出会ってきた多くの遺族の方々のそのままの姿が記されているのです。先生自身、安易にある時点での悲しみを切り取って書き記すことにためらいを感じずにはいらなかったと述べられています。しかし「私たちの人生そのものが「点」であり、その「点」の連続で線になっているだけなのかもしれない」ともおっしゃっています。私は若林先生の言っていることは的を射ていると思います。点と点が繋がって線になるのが私達人間の人生ではないかと—。

あとがきを読むに当たっては、若林先生のお人柄がうかがえる、とてもやさしく思いやりにあふれた文章だという感覚を覚えました。本を読み終わったとき、リメンバー in岡崎の講演会で講演をしてくださった若林先生の穏やかで優しい口調が思い出されました。そして、あのときの講演会のような穏やかで静かな読後感を味わいながら、本を閉じました。(A. S)

死別の悲しみを超えて
岩波現代文庫
若林一美・著
¥1,050円

りめんぼー

先日、あるスキー場から30分程山道に入った眺めのいいところで、何時間もゆっくりと時を過ごしてきました。

この時期ですから、あたり一面は雪景色です。真っ白な、美しく、張りつめた景色は、雪山ならではのものです。そこは登山道だったのですが、その日通り過ぎて行った登山者は2組だけでした。スキー場からそれほど遠くないため、スキー場の音楽、歓声も微かに聞こえてきます。

スキー客でもなく、登山者でもなく、どこにも属さない、属せない自分の存在を感じていました。

その場所に、3ヶ月前に死んだ我が家の猫の雪だるまを作り、隣に座って、一緒に遠く見える麓の景色を眺めていました。「猫よりも先に死ぬからね」と言って、本当に猫より先に死んでしまった妻が、とても大切にしていた猫でした。冷たい雪でできた猫の姿に、生きていた時と同じ温もりを感じていました。

その場を離れる時、少し迷ったのですが、雪だるまは崩すことにしました。そんな寒いところに一人残しておくのが切なかったからです。

山道を、自分の付けた足跡をたどりながら、ゆっくりと、賑やかなスキー場に戻りました。そこから、大勢のスキー客に交じり、ゴンドラで山を下りて行きました。それぞれの人の非日常が詰め込まれた閉ざされた空間の中で、自分ひとりだけ、悲しい顔をしていたかもしれません。

(KN)

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。詳しくはお問い合わせください。